



都議選で示された
民意はアベやめろ

自治会で集める寄付は任意で強制できない 消防後援会費はボランティア活動への感謝

おさなみ議員は一般質問で自治会が赤十字社資や社会福祉協議会、赤い羽根等の寄付金が納めるにあたっての会員からの集金方法、さらには消防後援会費の違法性を取り上げた。

普通に行われているこれらの寄付金は、あくまで任意であり強制性はない。仮に強制したり納めないものに対して不利益を押しつけるのは公序良俗違反と最高裁が判示している(甲賀市事件 2008年)。

これらを問われた野田市は副市長が答弁に立ち、この最高裁判例をもとに昨年からの自治会に対して赤十字などの寄付はあくまで任意であることを説明し、集金の際に

もそのことを説明するようお願いしていると答えた。

ただ消防後援会費については他自治体で集めていないところや横浜地裁判決を受けて取りやめたところがあることを認識しながら、横浜地裁の判決のさいに具体的な言及がないことや、消防団員が市の行政組織に位置づけられた非常勤特別職である一方、市民ボランティアとして「権利能力なき社団」という両面を持つこと、後援会費は後者の性格に対する自治会等から感謝と慰労の趣旨であるから問題ないと答弁した。

この答弁では異議を訴えている市民は納得しないであろう。

都議選で政権痛打 自民歴史的惨敗

都議選では予想通り自民惨敗で国政の不満や恨みを都民が果たした。この時期に選挙があった東京都、そしてそれに応えた都内の市民、活動した仲間の皆さんに拍手。

これで自民に代わる受け皿があれば自民政権を追い出すことができることがはっきりした。

ただし、大阪府における自民と維新の関係に東京がなってはたまらない。

新社会党が推薦など支援した候

補者は3勝5敗。前回が大幅議席増で、今回その維持ができるのか、都民ファーストと自民党との争いに埋没するのではないかと思われた共産党は2議席増で前進。とりわけ北区は千票差で滑り込み、区議を抱える我陣営の頑張りの結果が出たといえる。

長南議員が応援に行った世田谷の社民新人は次々点でもう一步。

民主党は後退でますます求心力を失ったが、次期総選挙での野

嫌われ続ける消費税 関わった政党の末路

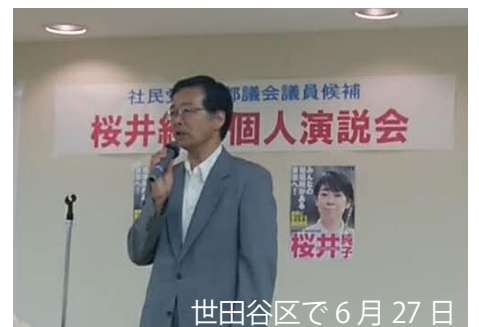
88年竹下内閣が消費税法案可決、89年に施行したが、リクルート事件が発覚して退陣。翌月の参院選で自民党は大敗し混迷へ。

93年に細川政権が発足して自民党が下野。しかし、その細川内閣も7%の国民福祉税構想を打ち上げて退陣に追い込まれる。

94年に社会党の村山富市委員長を総理として自民が政権復帰し、さきがけも含めた連立政権が発足。同年、地方消費税1%を含む消費税5%を決定。95年夏に退陣し、橋本龍太郎政権となる。

2012年に民主党中心の野田政権が消費税10%を法制化し、年末総選挙で大敗。以来、低迷中。

このように消費税法を成立させたか、動きを見せた内閣はことごとく崩壊。なかでも日本社会党と民主党はその後政党そのものが崩壊したり回復不能となっている。



世田谷区で6月27日

党と市民の共同に後ろ向きの姿勢を、これを機に転換しなければますます期待を失うだろう。

建設委員 市道の認定・廃止と次木親野井 会の審査 区画整理事業の清算金予算

6月議会でおさなみ議員が所属する建設常任委員会でも審査した議案は3件。市道の認定と廃止、もう1件は次木親野井特別土地区画整理事業特別会計の補正予算。

この補正予算は事業が終了するに当たり清算金の徴収と支払い

で、各2190万6千円。清算金の支払い者と受領者はそれぞれ238名と160名で、昨年7月の換地処分の際

に、各地権者に知らせ、その後も繰り返し知らせているが、異議



は担当者に寄せられていないという。

そのため、おさなみ委員は3議案とも賛成した。

写真は昨年12月議会で市道認定され工事が進められてきた、南部地区にある宗教法人霊波之光の東側に接する市道。これまで丁字路で見通しが悪かった南端を十字路で交差するようつくり直された。(左側が新道、右の壁際が廃道)

被爆国でも核兵器禁止条約交渉に参加しない政府とそれを支える市議会

「核兵器禁止条約の締結へ被爆国にふさわしい対応を求める意見書」が共産党議員から6月議会に提出された。しかし、賛成は新社会、市民ネット、共産、民進、無所属の会の少数にとどまり、否決された。

反対派の論理は核保有国や核の傘の下にいる大国が反対している中、議論しても実効性が出ないばかりか溝ができて逆効果というもので、政府の言い分と同じ。

しかし、被爆国日本政府が核保有国に追随して交渉参加を忌避し

たが、「百年河清をまつ」のではなく、核兵器を国際法上違法と規定して、使用禁止を進めたほうがよほど国際世論を喚起する。

日本政府が原発事業を維持しようとする背景には核兵器技術を温存しようとする意図があると言われているが、今回の対応はその姿勢が表面化したものだ。

基地をつくらせない、戦争を繰り返させない 核抜き・基地抜き・本土並み復帰の現実

沖縄県への千葉県警の機動隊派遣に端を発して結成された「沖縄と千葉を結ぶ会」が1日、200名を集めて千葉市内で講演と琉球舞踊などの集会を開いた。

当日高江のオスプレイヘリパッド工事が再開されることに後ろ髪をひかれながらも、沖縄から飛んできた系数慶子参議院議員が沖縄の声を私たちに伝えた。

1歳の姉、そして3歳の長男を戦争中に失った母親が語ろうとしなかった戦争の記憶を、戦後生まれの自分が親類から聞かされたこ

と、バスガイドになって初めて沖縄の歴史を学んだこと、参議院議員になって知った国会議員や官僚のほとんどが沖縄について無関心

であったこと、本土復帰の期待と45年後の現状……。

次から次と沖縄の悲憤と、そしてあきらめようとしないうる民衆運動が語られた。

